

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.143
2016/4/25

目 次

第 32 回年次大会のご案内.....	1
日本中東学会第 32 回年次大会・最終プログラム.....	2
人間文化研究機構プログラム・イスラーム地域研究第二期を終えて.....	8
AJAMES 編集委員会報告.....	11
寄贈図書.....	12
会員の異動.....	13
事務局より.....	14
編集後記.....	15

第 32 回年次大会のご案内

既にお知らせのとおり、日本中東学会第 32 回年次大会は 2016 年 5 月 14 日（土）、15 日（日）の両日、慶應義塾大学の三田キャンパスにおいて開催されます。大会案内と最終プログラムを以下のとおりお知らせいたします。なお、本記事と同様の大会案内と最終プログラムは、学会ホームページにも掲載しており、こちらは随時更新してまいります。また、最終プログラムについては、近日中に全会員の皆様のお手元にもお届けする予定です。

【1 日目の公開企画】

1 日目（5 月 14 日）午後の公開企画は、シンポジウムです。『インド洋海域史研究の現在』と題し、同分野を長年にわたり牽引し続けてこられた家島彦一氏をはじめ、インド洋海域とその周辺地域を専門とする計 5 人の研究者をお迎えします。地中海と同様、中東研究にとり重要な海域であるインド洋海域を多様な視点から議論していただきます。

【2 日目の個人研究発表・企画セッション】

2 日目（5 月 15 日）は、個人研究発表と企画セッションが行われます。企画セッションは、Matthew GRAY, TSUJIGAMI Namie, Sean FOLEY の報告による *Reimagining the Politics of the Gulf Monarchies in the 21st Century* と、高尾賢一郎、後藤絵美、松永泰行（コメンテーター）の報告による『現代ムスリム社会における宗教権威：ウラマーとイスラーム主義者を事例として』、さらに近藤久美子、榮谷温子、宮川光國の報告による『非母語話者に対するアラビア語教育と評価：アラブ地域と日本における事例から』の三つです。個人研究発表は、八つのセッションに分かれて行われます。詳細は、最終プログラムをご覧ください。

【当日の参加申込】

日本中東学会第 32 回年次大会への事前参加の申込は、去る 4 月 15 日（金）に締め切りましたが、当日も年次大会と懇親会への参加は受け付けます（2 日目の弁当および託児所利用の当日申込はお受けできません）。なお、**当日受付の場合の大会参加費は 2,000 円、懇親会費は 7,000 円（学生会員は 5,000 円）**とさせていただきます。ただし、大会 1 日目（5 月 14 日）の公開シンポジウムのみの参加であれば、大会参加費の支払は必要ありません。

【会場へのアクセス】

- ・ 田町駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分
- ・ 三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分

- ・赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩8分

【大会についての連絡先】

日本中東学会第32回年次大会実行委員会事務局

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学文学部 長谷部史彦研究室

Tel : 03-5427-1574 (研究室棟受付)

Fax : 03-5427-1578 (研究室事務室共用)

E-mail : james2016.keio@gmail.com

*可能な限りメールでご連絡・お問い合わせをいただければ幸いです。

(勝沼聡 大会実行委員会事務局長)

日本中東学会第32回年次大会・最終プログラム

1日目：2016年5月14日（土）

13:00-17:00 【公開シンポジウム】（西校舎517教室）

インド洋海域史研究の現在

・概要

中東は三つの大陸の結節点であるだけでなく、歴史的に重要な二つの海域世界—地中海とインド洋—が出会う場所でもあった。そのため海域からの視点も含めて地域を総合的にとらえることは、中東研究の深化にとって不可欠である。本公開シンポジウムは、陸域と同じ重要性を持つ海域、特にインド洋海域から中東を見据えることを目的とする。半世紀にわたって日本のインド洋海域史研究を先導されてきた家島彦一氏の講演を主軸に、多様な視座からの最新報告を交えながら、当該研究の「現在」を見定めたい。

・主催：日本中東学会、共催：慶應義塾大学言語文化研究所

・スケジュール

13:00-13:10 開会挨拶・趣旨説明 司会：新井和広（慶應義塾大学）

13:10-14:00 基調講演

家島彦一（東京外国語大学）「インド洋海域史研究の道を歩んで」

14:00-15:20 報告

上田信（立教大学）

栗山保之（東洋大学）

鈴木英明（長崎大学）

弘末雅士（立教大学）

*50音順

15:20-15:40 休憩

15:40-16:50 パネルディスカッション・質疑応答

16:50-17:00 閉会挨拶

17:15-18:15 日本中東学会総会（会員のみ）

18:30-20:30 懇親会（於 南校舎 4F ザ・カフェテリア）

2 日目：2016 年 5 月 15 日（日）

* 凡例：所属表記中の「院」は大学院生を意味する。

【企画セッション】

12:40-14:40 **企画セッション 1**（南校舎 433 教室）

Reimagining the Politics of the Gulf Monarchies in the 21st Century

Matthew GRAY（The Australian National University）

“Situating the Debate: The Case for a Reimagination of the Gulf’s Politics”

TSUJIGAMI Namie（The University of Tokyo）

“A Strategy of Surviving Patriarchy: Women’s Family Network”

Sean FOLEY（Middle Tennessee State University）

“To Think outside the Box: How Saudi Women Use a Conservative Culture to Transform the Kingdom’s Online World”

Chair: HOSAKA Shuji（The Institute of Energy Economics, Japan）

12:40-14:40 **企画セッション 2**（南校舎 412 教室）

現代ムスリム社会における宗教権威：ウラマーとイスラーム主義者を事例として

高尾賢一郎（日本学術振興会）

「サウジアラビアに見る職業としての『ウラマー』：ワッハーブ主義におけるその役割」

後藤絵美（東京大学）

「現代ムスリム社会における知識と権威：エジプトの『サラフ主義者』を事例として」

コメンテーター：松永泰行（東京外国語大学）

司会：長沢栄治（東京大学）

12:40-14:40 **企画セッション 3**（南校舎 422 教室）

非母語話者に対するアラビア語教育と評価：アラブ地域と日本における事例から

近藤久美子（大阪大学）

「非母語話者のアラビア語習得：母語の相違の観点から」

榮谷温子（慶應義塾大学）

「アラブおよびイスラーム系施設のアラビア語講座の特色」

宮川光國（独立研究者）

「アラビア語検定を通して見る日本におけるアラビア語学習評価」

【個人研究発表】

第 1 部会 (南校舎 433 教室)

9:00～9:40 井堂有子 (東京大学・院)

「エジプトの食料補助金制度改革と食料安全保障：小麦流通問題に着目して」

9:45～10:25 西舘康平 (東京外国語大学・院)

「GERD 原則宣言をめぐるナイル川流域の水政治」

10:30～11:10 齋藤秋生子 (上智大学・院)

「カッターフィー政権リビアにおける部族政策とその変容」

11:15～11:55 山本沙希 (お茶の水女子大学・院)

「女性零細事業主・在宅労働者の商実践と世帯：現代アルジェリアの首都アルジェを事例として」

14:50～15:30 今井真士 (文教大学)

「権威主義体制下の二元二首執政制とエジプト第三共和政の政党政治：大統領職の憲法的権限の変遷と 2015 年代議院選挙前後の党派的権力の展開」

15:35～16:15 河村有介 (ダラム大学・院)

「権威主義体制下における組織労働と政権：エジプトとメキシコの比較分析」

16:20～17:00 黒田彩加 (京都大学・院)

「屹立するイスラーム中道派の主張：世俗派と過激派のあいだで」

第 2 部会 (南校舎 435 教室)

9:45～10:25 今井宏平 (アジア経済研究所)

「トルコの国境管理政策：シリア国境とギリシャ国境での活動を中心に」

10:30～11:10 李若菲 (慶應義塾大学・院)

「交易ディアスポラと社会価値送金 (Social Remittances) の社会影響：レバノンの例から」

11:15～11:55 成地草太 (明治大学・院)

「クリミア戦争 (1853～56 年) 後、オスマン帝国の難民定住政策における「義捐金・物資 (iane)」：難民委員会による徴収と配分の構造」

14:50～15:30 山本健介 (京都大学・院)

「エルサレムにおける聖地問題の史的展開と現代的変容：イスラエル領内のイスラーム運動の活動を中心に」

15:35～16:15 小林和香子 (独立研究者)

「イスラエル人女性による平和構築活動の現状」

16:20～17:00 堀尾藍 (国際交流基金)

「パレスチナにおける初等教育の現状と課題：UNRWA による支援に対する一考察」

第 3 部会 (南校舎 422 教室)

9:00～9:40 Scott MORRISON (Middlesex University)

“Quantifying the Legal Content of *Qur'an* and *Hadith*”

9:45～10:25 KIM Suwan (KAMES/Hankuk University of Foreign Studies)

“Emerging Arab Inbound Tourism Market to Korea and its Challenges”

10:30～11:10 JIANG Xudong (Keio University)

“China's Role, Progress and Limitation in the Reconstruction of Iraq”

11:15～11:55 Khalil DAHBI (Tokyo University of Foreign Studies, J)

“The Evolution of Political Oppositions in Tunisia and Morocco: A Field-level Comparative Historical Analysis”

14:50～15:30 Qolamreza NASSR (Hiroshima University, J)

“Shi'a Islam and Democracy: Linkage and New Development before and after Iranian Revolution of 1979”

15:35～16:15 SUZUKI Takahiro (Doshisha University, J)

“'Homeland'-segregation Assemblage: Nation-state in Form, Colonialism in Content”

16:20～17:00 ABE Satoshi (Nagasaki University)

“An Examination of Roles of Islam in Iranian Environmental Politics”

第 4 部会 (南校舎 415 教室)

9:45～10:25 宮下遼 (大阪大学)

「16 世紀オスマン詩におけるトルコ語語彙の地位：簡明トルコ語派詩人を中心に」

10:30～11:10 岡崎弘樹 (パリ第 3 大学・院)

「現代シリアにおける監獄経験の表象」

11:15～11:55 天野優 (同志社大学・院)

「サミー・ミハエルの作品にみるファルフード：20 世紀イラクにおけるユダヤ人のアイデンティティに焦点を当てて」

14:50～15:30 穂山祐子 (一橋大学・院)

「トルコ共和国における新字の導入：普及をめぐる施策と実態」

15:35～16:15 竹田敏之 (京都大学)

「湾岸アラブ諸国におけるプリントメディアの発展とアラビア語意識の変容」

16:20～17:00 勝畑冬実 (東京外国語大学)

「エジプト映画における『イスラーム主義』の表象：「テロリスト (1994)」以前の作品分析から」

第 5 部会 (南校舎 436 教室)

9:00～9:40 近藤重人 (日本エネルギー経済研究所)

「サウディアラビアと中東和平提案」

9:45～10:25 渡邊駿（京都大学・院）

「アラブ・湾岸君主制：ハイブリッド性を解析するための視座をめぐって」

10:30～11:10 白谷望（上智大学）

「モロッコにおける伝統行事の政治的『制度化』：バイアの儀礼と国王の『フトバ』の分析から」

11:15～11:55 池端露子（京都大学・院）

「スンナ派国家としてのヨルダンとその宗派・宗教和合戦略」

14:50～15:30 岡野内正（法政大学）

「中東研究の質的変容に向けて：板垣雄三氏の問題提起をめぐって」

15:35～16:15 須永恵美子（京都大学）

「マウドゥーディーの経済観：雑誌『クルアーンの解釈者』に寄せた論稿を中心に」

16:20～17:00 荒井悠太（早稲田大学・院）

「歴史叙述におけるアサビーヤ：イブン・ハルドゥーン著『実例』の分析」

第 6 部会（南校舎 412 教室）

9:00～9:40 近藤信彰（東京外国語大学）

「19 世紀後半テヘランの宗教的少数派：シャリーア法廷記録より」

9:45～10:25 後藤裕加子（関西学院大学）

「サファヴィー朝初期の首都タブリーズの王宮地区」

10:30～11:10 青木健太（お茶の水女子大学）

「イスラーム国ホラーサーン州出現の背景：属州設置の思惑とターリバーンとの関係を中心に」

11:15～11:55 梶山卓哉（龍谷大学・院）

「英国外交文書から見たイスラーム革命直後のイラン」

14:50～15:30 上原健太郎（京都大学・院）

「マレーシアにおけるイスラーム型担保融資の実態と比較優位：クランタン州における顧客調査から」

15:35～16:15 川村藍（京都大学）

「イスラーム金融の民事紛争処理制度としてのドバイ・アプローチとマレーシア・モデル」

16:20～17:00 安田慎（帝京大学）

「宗教観光におけるアントレプレナーシップをめぐる一試論：インド・ムンバイのイスラーム旅行会社 S を事例に」

第 7 部会（南校舎 413 教室）

9:00～9:40 鷺見朗子（京都ノートルダム女子大学）

「『百一夜物語』の写本」

9:45～10:25 苗村卓哉（慶應義塾大学）

「ヒジュラ暦9-11世紀東アラブ世界におけるアルド：名士伝記集の数量的分析から」

10:30～11:10 野口舞子（お茶の水女子大学・院）

「12世紀前半マグリブ・アンダルスにおける法学者のネットワーク：カーディー・イヤードを中心に」

11:15～11:55 ハシヤン・アンマール（京都大学・院）

「イスラームにおけるハムル（酔酏飲料）の禁止：古典資料を用いた立法過程再構成の試み」

14:50～15:30 奥美穂子（明治大学）

『王の祝祭』から近代国家祝典へ：オスマン帝国における王権祝祭の契機と変容」

15:35～16:15 近藤文哉（上智大学・院）

『19世紀』エジプトのマウリドに対するイギリス人の観察と記述：ダウサを分析の中心として」

16:20～17:00 竹村和朗（東京外国語大学）

「苗農場で働く：現代エジプトの沙漠開拓地における農業実践の一事例として」

第8部会（南校舎414教室）

9:45～10:25 矢久保典良（千葉商科大学）

「日中戦争後期、中国ムスリム団体の憲政論議と「戦後構想」：1943年以降の言説を事例に」

10:30～11:10 役重善洋（大阪市立大学）

「日中戦争下における日本軍の宗教工作とシオニズム運動」

11:15～11:55 スールッラー・サット（アンカラ大学・院）

「トルコ学術界における井筒俊彦の位置づけ：評価と批判」

（勝沼聡 大会実行委員会事務局長）

人間文化研究機構（N I H U）プログラム・

イスラーム地域研究第二期を終えて

2015年3月末をもって佐藤次高先生のイニシアティブで始まった2期10年に及ぶ人間文化研究機構（N I H U）プログラム・イスラーム地域研究が終了した。2011年に佐藤先生の後を引き継いでから4年の歳月が過ぎた。未熟な運営にハラハラされた方も多かったと思うが、これまで様々な形でイスラーム地域研究を支援して下さった日本中東学会会員の皆様に深く御礼を申し上げたい。

NIHU プログラム・イスラーム地域研究の特徴は、早稲田大学、東京大学、上智大学、京都大学、財団法人東洋文庫のそれぞれに設置された研究拠点を結ぶネットワーク型の研究体制である。5 大学に設置された拠点を活用しながら全国各地の研究者をつなぐバーチャルな研究体制を構築するというのが狙いであった。この間に、NIHU プログラム・イスラーム地域研究と並行して、文部科学省による「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」（二〇〇八年度-二〇〇九年度）、「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」（二〇一〇年度-二〇一二年度）も推進した。両事業ともに、早稲田大学が、ネットワーク型共同研究の中心拠点として全体事業のコーディネートを担当したが、ネットワークを真に支えたのは、各拠点の活動を牽引した拠点代表、NIHU 研究員、分担者、研究協力者の方々である。

10 年に及ぶネットワーク型共同研究を通じて、「現代問題への歴史的なアプローチと地域間比較の手法を活用することにより、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築くことを目的とする新たな研究分野」という佐藤次高先生が構想されたイスラーム地域研究のコンセプトは、国内外に浸透したのではないかと思う。目指したのは、歴史学・宗教学・政治学・経済学・社会学・建築学・考古学・文化人類学・教育学・社会学など、多様なディシプリンの研究者による中東・北アフリカからアジア全域を対象とする総合的な地域研究、文理融合型地域研究である。また、「イスラーム地域」という広大な地域を対象としたことで、研究テーマに応じた地域設定や地域間の比較を促した。

クアラルンプール、カイロ、京都、ラホール、東京と 5 都市で開催した国際会議、各拠点主催の国際セミナーや研究会などを通じて、イスラーム諸国や欧米の研究機関に所属する多様な背景をもつ研究者・研究機関の輪が広がった。各研究班による研究成果の一部は、「イスラームを知る」シリーズ（山川出版社）、イスラーム原典叢書（岩波書店）、New Horizons in Islamic Studies Series（ルートリッジ社）、Islamic Area Studies Series（ブリル社）等を通じて公表した。

以上は、NIHU プログラム・イスラーム地域研究や文部科学省の助成によるイスラーム地域研究のごく簡単なまとめである。参画して下さった方々による数々の研究成果のお蔭で、日本の「イスラーム地域研究」の存在を国内外に示すことができたと思う。

一方で、この10年間に人文社会科学を取り囲む状況は厳しさを増していることも痛感した。急速に変わりゆく状況のなかで、今後、日本における地域研究をどのように育てていけばいいのかということも含め、4年間という限られた経験の中で感じた課題についての私なりの感想を述べることにしたい。

一つ目は、各大学に設置された拠点繋ぐネットワーク型研究が持つ可能性と限界である。NIHU プログラム・イスラーム地域研究は、国立（東京大学、京都大学）、私立（上智大学、早稲田大学）、財団法人（東洋文庫）という成り立ちの異なる機関を繋ぐ拠点形成事業として位置づけられていた。常設機関を設置するよりもはるかに少ないコストで研究者間の交流を活発化する意欲的な構想であるが、拠点となった各大学の負担は軽いものではなかった。特にNIHU から配分される研究資金の減少や文科省事業の終了にともなう予算減は各拠点にとって大きな悩みの種だった。各拠点は、さまざまな外部資金を獲得することで、この危機を乗り越えてきたが、業務負担が増大し、研究活動が圧迫されるというジレンマに悩まされた。

二つ目は、研究手法に関わるものである。イスラーム地域研究は、中東北アフリカからアジア全域を対象とする学際的地域研究を通じて、中東の相対化や中東と他地域の関係性を視野に入れた研究を可能にした。また、非中東地域のイスラームを考察の対象に組み込むことで、イスラームの多義性・多様性を浮きぼりにすることも目指した。ただし、イスラーム地域全体を俯瞰することはたやすいことではなく、実際には様々な地域、時代を対象とする個別事例の実証研究に比して、大きな議論への関心は必ずしも高くはなかった。日本の「イスラーム地域研究の特徴は、精緻でミクロな研究」とは、あるイラン人研究者のコメントである。このコメントは、「イスラーム地域研究」の成果全体を知り尽くした人によるものではないとはいえ、「イスラーム地域研

究」という枠組みの有用性を発信するためには、もう一工夫必要だったのではないかと
の思いが残る。

三つ目は、研究成果の社会への発信あるいは社会還元についてである。イスラーム
地域研究がスタートした10年前と比較すると、近年、大型プロジェクトを受託するに
あたって、テーマの社会的重要性、緊急性、社会への貢献が問われる傾向が強まって
いる。イスラーム地域研究が活動した10年の間、いわゆる「アラブの春」の挫折や
ISILの台頭に象徴されるように中東情勢は悪化の一途をたどった。イスラーム地域研
究は、目前の課題の解決を目指したプログラムではなかったとはいえ、イスラーム地
域研究の掲げる「現代問題への歴史的なアプローチ」の有効性を効果的に示すことが
できたかとの不安も残る。

最後は、人文社会科学に押し寄せるグローバル化への対応である。英語で発表し、
英語で書けば、国際化、、、という時代は終わりつつある。「精緻なマイクロ」研究を積み
上げた先に何を問うのか、日本ならではの視点とは？ 日本からできることは？ と
いうことが以前にも増して問われているように思われる。また、日本の研究環境その
ものの国際化も課題だと思う。日本で学び、日本で研究者として活躍する中東やイス
ラーム圏からの留学生を増やせるような環境が今後ますます必要になるのではないかと
感じている。

以上、勝手な感想を並べ立ててしまったことをお許しいただきたい。最後に改めて、
4年間、支えて下さったすべての方々に心より御礼を申し上げたい。

(桜井啓子)

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

1. 31-2号刊行のお知らせ

すでにお手元に届いていることと思いますが、31-2号が刊行されました。会員の方
でもし冊子がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局にご一報ください。

2. 32-1号編集中

昨年12月1日に投稿が締め切られた32-1号の編集作業を現在進めております。2016年7月の刊行予定です。

3. 次号締め切りのお知らせ

次号32-2号の締め切りは6月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を歓迎しております。

3. 博士論文要旨

AJAMESでは、会員による中東関連の博士論文要旨(英文)を掲載しています。とくに締め切りを設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部史学科 粕谷元気付

『日本中東学会年報』編集委員会

ajames-editor@james1985.org

4. 平成28年度科研費(研究成果公開促進費・国際情報発信強化(B))の採択

昨年度、「年報の欧文化とオープンアクセス化による日本からの中東研究発信強化」の名称で応募した平成28年度科研費(研究成果公開促進費・国際情報発信強化(B))が採択されました。期間は1年で、金額は250万円です。

(AJAMES 編集委員長 粕谷 元)

寄贈図書

【単行本】

Tobias Heinzlmann, *Populäre religiöse Literatur und Buchkultur im Osmanischen Reich: Eine Studie zur Nutzung der Werke der Brüder Yazıcioglu*, Würzburg: Ergon Verlag Würzburg in Kommission, 2015.

Martin Greve ed., *Writing the History of "Ottoman Music"*, Translations by Efkân Oğuz, Martin Greve and Onur Nobrega, Würzburg: Ergon Verlag Würzburg in Kommission, 2015.

Claudia Ulbrich & Richard Wittmann eds., *Fashioning the Self in Transcultural Settings: The Uses and Significance of Dress in Self-Narratives*, Würzburg: Ergon Verlag Würzburg in Kommission, 2015.

中町信孝『「アラブの春」と音楽：若者たちの愛国とプロテスト』ディスクユニオン、2016年。

安田慎『イスラミック・ツーリズムの勃興：宗教の観光資源化』ナカニシヤ出版、2016年。

SUGAWARA Jun & Rahile DAWUT eds., *Mazar: Studies on Islamic Sacred Sites in Central Eurasia*, Fuchu: Tokyo University of Foreign Studies Press, 2016.

柳谷あゆみ『現代シリアの短編小説：ザカリーヤ・ターミル著『酸っぱいブドウ（ヒスリム）』』（*Occasional Papers*, No. 19, Institute of Asian Cultures, Sophia University 上智大学アジア文化研究所）、2016年。

【逐次刊行物・ジャーナル等】

『季刊アラブ』No.156（特集 サウジアラビアとイラン）（2016年春）。

（森山央朗事務局長）

会員の異動（2015年11月以降）

【新入会員】

李 若菲

矢久保 典良

大崎 敦司

近藤 文哉

Sean E. FOLEY

天野 優

蔣 旭棟

【所属先・連絡先の訂正・変更】

吉村 武典
高尾 賢一郎
小坂 裕城
鶴見 太郎
高橋 圭
勝沼 聡
三代川 寛子
熊倉 和歌子
佐藤 秀信
外山 健二
苗村 卓哉
大坪 玲子
伊藤 彩

事務局より

会員の皆様におかれましては、新年度を迎えられまして、色々と変化のあった方も多いと思います。事務局のおつとめも2年度目に入りまして、年季明けまで1年を切りました。相変わらず不備の多い事務局ですが、皆様のご協力を得て、大過なくおつとめを終える日を指折り数えて参ります。つきましては、所属や住所を変更された方は、確実に事務局までご連絡ください。個人的に異動を存じ上げている方もいますが、ご本人から事務局に連絡をいただかないと、会員データを変更することはできません。所属や住所は個人情報ですので、そこはコンプライアント（杓子定規？）にいかなければなりません。ご協力をお願い致します。また、会費の納入につきましても、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(森山央朗事務局長)

編集後記

慶応大学三田キャンパスにおいて開催されます、第32回年次大会の最終プログラムをお届けします。公開シンポジウム、企画セッション、個人研究発表のいずれも大変魅力的なテーマで、2日間がとても楽しみです。

と、これを書いているときに、熊本大地震が発生しました。本震とされた4月16日未明の震度6強の地震から、一夜明けたところです。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、負傷者の方々のご回復や、被害からの復興をご祈念いたします。東日本大震災以降、各地で火山活動や地震が続いていて、不安ですね。人のことはあまり言えないのですが、日ごろからの備えが大事と思います。

(松本弘)